

第1回 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会 会議録（要旨）

開催日時：令和2年8月26日（水） 午後2時から午後4時

開催方式：オンラインによるビデオ会議

参加委員：15名

那須塩原市：渡辺市長

事務局：3名

1 開 会（午後2時）

2 市長あいさつ（渡辺市長）

皆さんこんにちは。渡辺美知太郎です。

今年は新型コロナウイルス感染症で様々な行事やイベントが延期や中止になってしまっております。

私は、市長になって1期目は、那須塩原駅周辺を那須塩原市だけではなく、栃木県北地域の玄関口としてふさわしいエリアにしたいなという思いでやってきました。昨年は、有識者の方々、大手の企業様、そういった外部の方々をお集めして、那須塩原駅周辺をどのようにしたら良いか会議を開き議論していただきました。大変素晴らしい内容になり、専門家から見た駅周辺であったり、開発事業者・デベロッパー等の大きな資力を持つ企業様から見たあるべき姿などの意見をいただきました。昨年行った議論は、あくまでも外部から見た意見であります。もちろん外部から見た話も、こういう風にすれば投資を呼び込めるよとか多くの人に来てもらえるよという要素があるわけですが、やはり市民目線を見た、つまり駅周辺の暮らしやすさ、暮らしやすさというのは外から見ても分からない部分であります。

今日は様々な方々、各分野で御活躍されている方々にオンラインではありますが、お集まりいただいております。もちろん住民の方もいらっしゃいますし、そうではなくて、市の事業等に関わっていただいている住んでいるところは違う地域の方もいらっしゃると思います。住んでいる方は暮らしやすさ等、両方分かるという方は、外からと中からのそれぞれの視点で忌憚のない御意見をいただければというように思っております。楽しみにしていたのですが、コロナの状況で遅くなってしまいましたが、ようやくこうしてできることになりましたので大変嬉しく思っております。

これから栃木県北にふさわしい玄関口、そして市民にとっても住みやすい、暮らしやすい駅周辺を作っていきたいと思っておりますので、どうかお願いを申し上げます。今日からはよろしく申し上げます。

3 自己紹介

4 会長・副会長選出

那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会設置要綱第5条の規定に基づき、会長に石井大一郎委員、副会長に橋本秀晴委員をそれぞれ選出

会長： 改めまして宇都宮大学の石井です。時間が少ない中で、どこまで議論を詰められるか分かりませんが、努力したいと思います。ビジョンづくりはもちろんですが、市民懇談会や今後行われる予定の市民団体へのインタビュー、さらには市民へのアンケートを行っていくなかで、駅前が変わっていくんだということを幅広く知っていただく。そしてこのプロセスの中に新しいメンバー、これから住んで使い込んでいくようなメンバーに仲間になってもらえるような1年にしていきたいと思います。頑張りますのでよろしく申し上げます。

副会長： 改めまして橋本でございます。時代は移ってもまちづくりの主体は市民であると思っております。市長もおっしゃっていましたが、那須塩原駅周辺に市民が集って活気溢れる玄関口、那須野が原の中核都市として、皆様の様々な意見を出していただきながらこの市民懇談会でビジョンを練り上げていければと思いますので、よろしく申し上げます。

5 議 事（進行：石井会長）

会長： 会議の進め方、オンラインでの進め方について、確認したいと思います。基本的にはミュートにさせていただいて、発言する時にミュートを解除していただく。画面上に挙手のボタンはありますが、やりながら慣れていただければと思います。また、事務局からの説明の際には、資料を画面上で共有していただき、カーソル等も動かしながら、どこの部分の説明をしているか確認しながら進めていただければ幸いです。

以上のような最低限度のルールに基づいて進めたいと思います。

それでは、次第に基づき、会議を進めてまいります。

はじめに、(1) まちづくりビジョン策定の全体スケジュール及び位置付け等について、(2) まちづくりビジョン骨子については、関連がございますので、事務局より一括して説明をお願いします。

事務局： (1) まちづくりビジョン策定の全体スケジュール及び位置付け等についてと (2) まちづくりビジョン骨子について説明させていただきます。(資料に基づき説明)

会 長： 事務局からの説明がありました、スケジュールと位置付けについて、委員の皆様から、御質問や御意見をいただいていたと思います。せっかくですので、前提をありきで考えずに、そもそもこうじゃないかという意見も受け止めながら進めていきたいと思います。

委 員： スケジュールについて、プロジェクトが実施されるのが令和4年度となっているが、時間が掛かり過ぎではないか。骨子ビジョン1～6に商業活動について触れられていない。商業活動、観光に絡めた項目も必要であると考えます。

事務局： 今回策定するビジョンはまちづくりの基本構想的な位置付け、夢を描くものになります。ビジョンを具現化していく、実効性のあるものにしていくために具体的な事業等を来年度にぶら下げていきたいと考えています。昨年度実施した有識者会議の報告書の中で上質な高原リゾートのイメージなどポテンシャルがあるという報告がなされており、ビジョン1の中で観光や商業についても書いていきたいと考えています。表題だけでは分かりにくいかと思いますが、報告書や委員の皆様からの意見を基にそれぞれのビジョンの中に謳い込んでいきたい。

スケジュールにつきましては、今年構想を作っていきたい。現在、市で色々な事業をやっていますが、そういった事業をぶら下げていく作業を来年度以降のロードマップづくりで行いたいと考えています。その中では、今行っている事業以外でも、新しいメニューも付け加えていきたい。

会 長： 昨年度の報告書はホームページから見られるようになっていますが、このビジョンの各項目のタイトルは、この懇談会の中で変わっていても良いと思っています。商業とか観光のことが全体の順位の中で上位に挙がって来ることが合意されれば、この懇談会から提案することで良いのかなと思います。

委 員： 新庁舎が完成していないので、駅前のイメージが私には出てこないのですが、新庁舎が出来て、それ以外の土地で市が確保出来ている土地があるのであれば、

駅前周辺に市の特産品を扱うようなものが大通り沿いに出来ると良い。あと、見送りの時などに利用できる無料の駐車場もあると良い。

委員： 商人として地域商売の活性化を望みたいと気持ちはもちろんなのですが、現在の駅前駐車場だらけである。一つでも駐車場を無くしてとっては失礼ですが、魅力ある商店街通りにして欲しい。例えば赤提灯通りなど、スルーして帰るのではなく、ちょっと立ち止まって楽しめる場所を作っていければ商売にもつながるし地域活性化にもつながるのではないかと考えております。そのようなところを皆さんと議論しながらビジョンを作っていけたらと考えております。それと東那須地区は歴史がある地区なので、みんなで探訪できるようなものを作っていけたら、発展すると思います。

会長： このビジョンを検討する上で、空間的にどのエリアを想定して検討すれば良いのか。駅周辺の私有地をどのように捉えたら良いのか。委員の皆さんで共有出来るものはあるか。

事務局： エリアについては、現時点では西も東も決めてはおりません。先程、委員から御意見がありましたが、東口は東口で魅力がありますし、西口はより発展の余地があり、それぞれの色があると考えております。それぞれの色を生かしてビジョンを描いていきたい。委員から御意見があったように回遊できるような施設や施策についても意見をいただきたい。現時点では、予算やエリアも決まっていないので、前提に縛られることなく、御議論いただきたいと考えています。

会長： まちづくりというとハードウェアの方に目が行きがちですが、それだけではないということが確認出来たと思います。また、議論する上で公有地であろうと私有地であろうと関係ないということで良いですね。

事務局： ビジョンを描くことで民間力の導入や促進を促したいということを考えるので、ビジョンがその足掛かりになればと考えています。

委員： 宿泊のお客様から何も無いとは聞いていたけど、本当に何も無いねと言われることが非常に多い。皆さんが求められている物が何かということ把握するのは非常に難しいが、おそらく飲食店や商業施設、買い物が出来たりお食事が出来る所と、新幹線の待ち時間に利用できる喫茶店等のスペースを求められているように感じています。また、塩原や那須などの観光地への二次交通や三次交通を考えた上での駅周辺の整備を考え、駅前ロータリーなども検討する必要があるのかなと感じています。

委員： この市民懇談会の名称が「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会」という名称だが、昨年の有識者会議の報告書にあるように、那須塩原駅周辺だけを議論するのではなく、那須野が原の歴史や市民が生き生きと活動出来るような、生活が出来るという考えが必要だと思う。ブリヂストン黒磯工場跡地について、自治会長連絡協議会として要望書を提出し、市長を先頭に企業に対して要望をしていたわけですが、ハザードマップの浸水想定区域に入ったということで活用を断念せざるを得なかった経緯があります。今回のビジョンでは、西口だけでなく、市民全体、元黒磯市民も元西那須野町民も元塩原町民もみんなが那須塩原駅周辺に行ってみようではないか、新庁舎も含めてその周辺で何かやってみようではないかというような思いを盛り上げていていただきたい。

委員： 他の委員さんからも駐車場の話が出ていたが、公共交通の問題であると思う。なぜ駐車場があるかと言うと、朝早く電車に乗る人がバスがないので車で駅に行く。帰って来ても夜の時間にバスがないので車で帰るかタクシーで帰るしかないということがあると思います。しかし、平日に朝から夜まで何の使い方もない車を駐車場に置いておくことは全く無駄であって、原価計算をしたら何の為の車かということになると思う。公共交通の整備が必要である。民間は利益を出さなければならないので、市が負担をして公共交通を整備する。那須塩原市は電波環境が悪い地域もあります。Wi-Fi スポットを整備するとか出来るところからやったほうが良いと思う。2050年を想定とのことだが、未来過ぎるのではないか。昔は10年が長期計画だったが、今は世界が速く動くので、5年で長期、3年で中期、2年で短期というように5年スパンであるのが民間である。2030年ぐらいを想定した方が良いのではないかと私は考えています。

会長： これまでの駐車場や公共交通についての意見に対して、事務局で回答や補足説明があればお願いしたい。

事務局： 今の御意見については、有識者会議の報告書でも指摘されており、市民の皆さんも御意見をお持ちだと感じております。駐車場が多い理由については、先程、委員からおっしゃっていた状況もあると思いますが、今後それらをどうするかということは、ビジョンを描いて次のステップに進めていきたいと考えています。また、回遊性を生み出すためにどのような施設が必要かなどについても、アンケートを取る中で傾向を掴みたいと考えています。また、公共交通につきましても昨年度の有識者会議の報告書でも指摘されており、公共交通の充実もビジョンの中にしっかり謳っていききたい、その後の計画につなげていきたい

い。2050年というのは、確かに将来過ぎて想像しにくいという御意見もございましたが、30年後とした理由としましては、もちろん自分事としてとらえていただきたいということもありますが、自分の子供や家族にとっての未来というのはどういう未来かということを描けたら良いと考えスパンを30年としております。

会 長： ありがとうございます。まだ意見はあると思いますが、ビジョンについては、今後も議論をしていきますが、市民の意見を聞くための手段としてアンケートを考えていて、これについて今日決めたいということですので、一端、議事の(3)市民アンケート調査についての説明を聞いて、その後またビジョンの話に戻っても良いと思いますので、事務局からの説明を聞くことでよろしいでしょうか。

それでは、事務局からの説明をお願いします。

事務局： (3)市民アンケート調査についてご説明させていただきます。(資料に基づき説明)

会 長： 事務局からの説明が終わりましたので、アンケートの内容について御意見があればお願いします。

委 員： アンケートを取ることだが、まちづくりビジョンについて知っている市民がどれだけいるのか。まず、なぜ那須塩原駅周辺のまちづくりをしなければならないのかという市長の熱い思いを知ってもらう必要があると思う。もう少し、県北の那須野が原の中核としての那須塩原駅周辺をどうするかということをこれまでも議論されてきた訳で、その辺の前振りがあっても良いと思う。

会 長： 私も委員を引き受けるに当たり、市民参画が専門ですし、すでに決まっていることのみを議論するのはナンセンスですし、これからまちづくりを担っていく新しい人達に知ってもらい、関わっていただく必要があると思っています。今回のコロナ禍の状況でどうやって打ち出していくのかということは重要だろうと思います。今回のアンケート調査は無作為抽出の2000人をサンプリングしていますが、アンケートの意味はアンケートを取るだけではなく、より多くの人に知ってもらうという機能や意味合いもあると思っています。アンケートはさっぱりしていますが、市長の直筆のなんのためにやっているというようなメッセージなども必要なのではないかと思います。

委 員： アンケートについて、2000人を無作為抽出して配布するとのことですが、人口構成比について配慮した形なのかということが一つ。まちづくりビジョン

を作り上げるために市民からの声を反映させたいということで、一つの手法としてアンケートやグループインタビューやワークショップ等をやられるんだと思うのですが、ビジョンが30年後を意識している中で、物語の主演は誰がなっているのかというと、小中学生や高校生だと思う。今回のアンケートは15歳以上となっているが、15歳以上の子たちがきちんと理解して回答できるのかと感じる。また、アンケートが送付された人の中から参加したい人がワークショップ等に参加出来て、すごく限定された方になってしまう。私の提案としては、例えば幼稚園児や小学生に将来の駅周辺はどうなって欲しいと問いかけて、それを絵に書いてもらって駅周辺に飾ったりすれば機運も高まると思いますし、絵の中に何を描いているのか絵の中から掴み取ることができると思う。中学生や高校生・大学生になれば、ワークショップで大学生が中心となってみんなでどういうまちにしたいか議論した方が、アンケートよりも効果的な意見を抽出することが出来るのではないかと思います。アンケートに引っ張られることなく、どうやって機運を高めていくか検討が必要だと思います。聞くべき声をきちんと拾っていくことが大切だと思います。

会 長： 機運を高めていくための手法について意見をいただきました。今回の対象者は15歳以上になっていますが、ビジョン設定を考えると、小学生や中学生へのアプローチも必要になると思います。そこにアプローチすると、その親も関心を持ってくれるかもしれないという効果も期待できる。今回はアンケートですが、その先のグループインタビューやワークショップの場面で、そういった声を拾っていくことは必要だと感じました。

委 員： 2050年の未来と言われて、自分は子育て支援施設で働いているので、自分が日々向き合っている子供たちが大きくなった時にどうなっているのかなと、そういうものを描くんだなと想像できました。全体を見ていて思ったのが、このまちづくりビジョンは外向きなのか、内向きなのか、どちらなのかと感じた。今住んでいる方、生活者としてどうしていきたいかということなのか。外から人を呼び込むことをメインに考えているのか。どちらの視点かごちゃごちゃなような気がしました。アンケートを見ても、生活者としての意見を求められているのか、市のことを外に発信するのにどうすればいいかを問われているのか、考え方で答えも変わってくると思う。両方の視点が必要だと思うが、ビジョン検討する際にどういうスタンスで議論すればいいのか整理したほうが良いと思います。

委員： 中高生の意見は大事だと思う。30年後に働き盛りになっている年代の声を聴くことは必要ではないか。市長はツイッターでいろいろ発言されていて、若者もフォローしている。難しいかもしれませんが、いくつか項目を絞ってツイッターのアンケートで高校生からの意見をもらってはどうかと思う。駅前に何が必要かという設問で、カフェ、飲食店、勉強場所などの選択肢があって、必ずしも実現できないということは分かっているけど、自分たちに駅前についてどうしていくか聞かれているんだという実感や、自分たちの意見が反映されるかもしれないというプロセス自体が大事だと思う。実現は難しいかもしれないが、項目を絞って高校生と駅を利用する方にツイッターでアンケートを実施してはどうかと思います。

委員： アンケートは市民対象であるが、観光客や駅を利用する市外の人々の意見を聞く機会があっても良いように思います。

委員： 人口が減っていく中で、まちが活性化するかどうかは、まちに関わってくれる人をいかに増やしていくかだと思います。まちに興味がない人が100人来るよりも、まちに興味がある人が1人来たほうが幸せなまちになるのではないかと思います。なすしおばらファンクラブの事業に関わらせてもらっているが、まず興味を持ってもらうことが大事。現在会員が1,100人くらいいる。市の人口の約1%に当たる。那須塩原駅周辺の整備についてもまちに関わってもらえる仕組みを作ることが大事だと思います。都心のニュータウンは同年代の人が入居し、今は高齢化し、問題となっている。建物は、だんだん古くなってきますが、時代に合わせて回していけるような仕組みを考えて、建物が足かせにならないようにすることが必要だと思います。現在のコロナ禍で、今の延長線上ではなく、新しい那須塩原市、那須塩原市2.0でもいいのですが、全く新しい那須塩原市にしていけたらなと感じています。

委員： 那須塩原駅は、朝夕に国際医療福祉大学の学生が多く利用している。学生が30分でも時間をつぶせる場所があればと考えています。玄関口という言葉がでてくるが、玄関口何をすればいいのか。自分として考えたときに、市内には魅力がたくさんある。市の魅力を凝縮したようなものがあれば良いのではないかと。地図などではなく実物を作ってみると面白いのではないかと。あと、色々な駅前にその土地を象徴するモニュメントがあることが多い。那須塩原の場合何かかなと考えた時に、巻狩りの頼朝公が頭に浮かぶが、それだけで良いのかなと、若い人の好みや新しいニーズの把握も必要だと思う。外から来てもらった方によ

うこそというスタンスが大きいと思うが、今の子ども達が都会に憧れて出ていった時に、里帰りやこちらに戻ってきた時に、おかえりなさいという気持ちで迎えてあげたい。そういうまちづくりをしたいという思いでお祭りも行っている。

委員： 那須塩原市には駅が三つある。那須塩原駅にしかないものが必要。那須塩原駅にしかないものを考えると、那須塩原駅からの景観が大切だと思う。現状は駐車場通りになっているので、駐車場をどうするかということに関しては、あるものを排除することは出来ないので、駐車場を経営されている方たちの為にも駐車場の上空の利用を考えれば良い。例えば、1階は駐車場にして、2階をシェアオフィスや産直、子育て支援施設を作れば良い。産直には民間の力を利用し、その一角にカフェや飲み屋に入ってもらえればと思う。30年先と言わず、10年後ぐらいには実現できるように、行政のやる気を見せて欲しいと思います。

事務局： ビジョンアンケートの意義について伝わらないのではないかという意見をいただきました。今回の資料には付けていませんが、市長のメッセージを同封する予定をしています。その中にまちづくりに対する市長の思いやアンケートの意義などについて書く予定です。当初は大規模なワークショップを予定しており、様々な方に参加いただき、意見を聞きたかったが、コロナの状況により出来ないため、アンケートという手法を取らせていただいた。アンケートからは傾向しか掴むことはできないので、グループインタビュー等で生の声を聴いていきたいと考えています。幅広い年齢層から意見を聞く手法も検討していきたい。外からの意見を聞いてはどうかというお話もありましたが、宇都宮大学との連携の中で、宇都宮大学の学生と一緒にやることも考えている。まちづくりの担い手を増やしていきたいというのが市としてもありますので、今回のアンケートを通じて市民のまちづくりに対する素地がどれ位あるのかを把握し、まちづくりにつなげていければと考えています。

会長： 今回の市民懇談会は、この場の議論だけでなく、それぞれの団体に聞いてもらったり、こういうやり方があるよというように個別に意見を言ったり、そういう広がりが出てくると良いと思います。幅広い方々が、「私たちに聞かれているんだ」という実感があると良い。たくさんの人たちに聞いて、かたちにして、それをまた発信すると他の市民の方にも関心を持ってもらえることもあると思うので、難しいかもしれないが、実験的にツイッターでのアンケート

トを実施するなど検討しても良いと思う。数は少なくとも良いのでやってみたら良いと思う。

委員： 皆さんの活発な議論を聞いて、那須塩原駅周辺は活性化するなど感じる事が出来た。自分の団体に戻り、メンバーの意見を聞いて、次回の会議に参加したいと思います。

副会長： 皆さん、見識のある貴重な御意見ありがとうございました。まちづくりの主体は市民であると考えておりますので、この懇談会の内容を自分の団体に報告して情報を共有していきたいと感じています。

会長： それでは、議事については、終了ということにさせていただき、進行を事務局にお戻しいたします。

6 その他（事務局からの事務連絡）

- 次回の市民懇談会につきましては、10月下旬頃を予定しております。

7 閉 会（午後4時）